

エコアクション21

環境経営レポート

発行日；2024年3月1日

活動期間：2023年1月1日～12月31日



株式会社モンリク

【目次】

表紙	1
目次	2
1. 組織の概要	3
2. 環境経営方針	4
3. 実施体制	5
4. 中長期環境経営目標	6
5. 環境経営計画	6～7
6. 環境経営目標の達成状況	7
7. 環境経営計画の取組みとその評価	7～9
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果及び違反・訴訟の有無	9
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	9

1. 組織の概要

名称及び代表者名

株式会社モンリク 代表取締役社長 藤川和央

(1) 所在地

本社 : 福岡県北九州市門司区新門司北 2 丁目 4-16

日田支店: 大分県日田市大字高瀬 6979 サッポロビール(株)九州日田工場内

日田倉庫: 大分県日田市大字花月字野田 1175-2

(2) 環境管理責任者及び担当者並びに連絡先

環境管理責任者: 代表取締役社長 藤川和央

TEL: 093-483-3210  : kazuhisa_fujikawa@monriku.co.jp

環境管理担当者: 本社事務所 平山展子

TEL: 093-483-3210  : nobuko_hirayama@monriku.co.jp

: 本社事務所 藤川功樹

TEL: 093-483-3210  : koki_fujikawa@monriku.co.jp

(3) 事業内容

一般貨物運送事業・倉庫業

サッポロビール株式会社 九州日田工場内 請負業務 (物流センター、メンテセンター、副産物・廃水管理、製造内業務)

(4) 事業規模

資本金 1500 万円 売上高 866 百万円

	本社	日田支店	日田倉庫
従業員数	15 名	67 名	0
倉庫延床面積	2,597 m ²	0	1,089 m ²

(5) 事業年年度; 1 月~12 月

■認証・登録の対象範囲 (全組織・全活動)

(1) 対象事業者名 株式会社モンリク

(2) 対象事業所 本社・日田支店・日田倉庫

(3) 対象事業活動 一般貨物運送事業・倉庫業

2. 環境経営方針

○環境経営理念

株式会社モンリクは、一般貨物運送業・倉庫業を通じ、環境課題解決企業として社会から信頼される企業を目指します。そのために、環境保全活動を推進することが企業の社会的責任であることを認識し、事業活動から生ずる環境負荷を低減して行きます。

○環境経営方針

1. 二酸化炭素（CO₂）の排出の削減に努めます。
 - 1) 省エネ運転を実施し、ガソリン・軽油の使用量を削減します。
 - 2) 低公害車の導入を推進します。
 - 3) アイドリング時間を軽減していきます。
2. 事務所内でも出来る環境保全活動の推進
 - 1) 環境に良い商品、サービスの採用、エコマーク製品の優先な購入を実施します。
 - 2) 不必要な照明の消灯を徹底します。
 - 3) 空調機器の適正温度を図ります。
 - 4) 電子データ化・IT化を推進します。
 - 5) 使い捨て製品の購入を控えます。
3. 環境経営目標を設定して、環境経営・環境保全活動の継続的な改善に努めます。
4. 関係する環境法規及びその他の要求事項を遵守し、環境負荷の軽減、環境汚染の防止に努めます。
5. 環境教育・啓発行動を通じて全従業員に環境経営方針を周知するとともに、従業員の意識向上に努めます。
6. この環境経営方針は、広く社外に公表します。

制定：2022年10月24日

株式会社モンリク
代表取締役社長 藤川和央

3. 実施体制					作成日	令和4年11月28日	
					作成者	藤川和央	
【EA21 実施体制】							

4. 中長期環境経営目標

作成年月日	環境管理責任者	作成者
2022年12月23日	藤川和央	藤川和央

環境目標	単位	基準年度	目標値			
		2022年度	2023年度 目標値	2024年度 目標値 【2023年度比】	2025年度 目標値 【2024年度比】	
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	731,139	723,827 (1%削減)	716,588 (1%削減)	709,422 (1%削減)	
(門司) (日田)	電力使用量の削減	k W h	90,053	89,142 (1%削減)	88,260 (1%削減)	87,377 (1%削減)
	軽油使用量の削減	ℓ	114,254	113,109 (1%削減)	111,980 (1%削減)	110,860 (1%削減)
	軽油使用量の削減	ℓ	138,142	136,760 (1%削減)	135,393 (1%削減)	134,039 (1%削減)
	全車輻平均燃費の向上	km/ℓ	4.39	4.34 (1%UP)	4.32 (1%UP)	4.28 (1%UP)
	ガソリン使用量の削減	ℓ	4,104	4,070 (1%削減)	4,022 (1%削減)	3,982 (1%削減)
	液化石油ガスの削減	kg	9,100	9,100 (1%削減)	8,919 (1%削減)	8,830 (1%削減)
2. 廃棄物排出量の削減	kg	51	51 (1%削減)	50 (1%削減)	49.5 (1%削減)	
3. 水使用量の削減	m ³	423	423 (1%削減)	415 (1%削減)	412 (0.5%削減)	
4. 従業員への環境教育の実施	—	—	12回/年実施	12回/年実施	12回/年実施	
5. 会社周辺及び敷地内清掃	回	—	1回/月	1回/月	1回/月	
6. グリーン製品購入の推進	回	—	購入月対象	購入月対象	購入月対象	

※CO2排出係数（調整後排出係数）【0.479kg-CO2/KWh】2020年度実績（九州電力）

※化学物質は使用無し

5. 環境経営計画

5-1 電力使用量の1%削減

- (1) エアコンの設定温度を決め、実行する
- (2) 不必要な照明の消灯
- (3) 長時間席を離れる場合や休日は、パソコン電源差込口を外す
- (4) 不要な場合、機械電源OFF
- (5) 不必要に定温倉庫の開閉を行わない

5-2 軽油使用量・ガソリン使用量の1%削減

- (1) 運転指導によるエコドライブの実施
- (2) 車両整備の徹底（タイヤローテーション・タイヤ空気圧の調整）

5-3 液化石油ガスの使用量削減

- (1) 無駄な使用頻度を無くす

5-4 廃棄物排出量の1%削減

- (1) 廃棄物の分別の徹底
- (2) リサイクル推進活動の展開

5-5 水使用量の1%削減

- (1) 洗車機使用時の節水意識の浸透を図る
- (2) 効率の良い洗車手順の改善・指導を図る

5-6 従業員への環境教育の実施

- (1) 月1回のミーティングにおいて、環境負荷軽減の意識付けを図る場とする

5-6 会社周辺及び敷地内清掃

5-7 グリーン製品購入の推進

6. 環境経営目標の達成状況

2023年 環境目標 実績表							
環境目標	単位	基準年度	目標		実績	【目標値】 達成率	判定
		2022年度	2023年	基準値	2023年度		
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO2	731,139	723,827	△1%	687,550	105%	○
電力使用量の削減	k W h	90,053	89,152	△1%	98,492	91%	×
(門司) 軽油使用量の削減	ℓ	114,254	113,111	△1%	106,858	106%	○
(日田) 軽油使用量の削減	ℓ	134,142	132,800	△1%	131,965	101%	○
全車輻平均燃費の向上	km/ℓ	4.39	4.34	+1%	4.34	100%	○
ガソリン使用量の削減	ℓ	4,104	4,063	△1%	4,099	99%	×
液化石油ガスの削減	kg	9,100	9,009	△1%	4,900	179%	○
2. 廃棄物排出量の削減	kg	51	50	△1%	96	52%	×
3. 水使用量の削減	m ³	423	419	△1%	385	109%	○
4. 従業員への環境教育の実施	—	12回/年	12回	月1回	12回	100%	○
5. 会社周辺及び敷地内清掃	回	—	1回/月		12回	100%	○

7. 環境経営目計画の取組結果とその評価

7-1 二酸化炭素排出量の削減

(1) 電気使用量の削減

削減目標を前年同期比1%削減においた。例年通りの電気の使い方であれば、目標達成出来る見立てであったが、猛暑と寒気が続いた事で体調等を考え温度設定を調整した事と、定温倉庫の入出庫作業は増加した事で、温度スイッチの入切の回数とシートシャッタの開閉頻度が増えたことが、目標未達の源です。

(2) 軽油使用量の削減と平均燃費の向上

九州日野自動車㈱様の省エネ講習（令和４年１０月２５日）以来、乗務員の意識と省エネ運転技術が向上してきた。荷物を積んだ際の走り方やグリーンゾーンでのシフトチェンジが功を奏し、軽油量の削減と燃費向上に役立っています。定期的に省エネ運転講習を行って行く予定なので、更なる向上を見込めます。

（３） ガソリン使用料の削減

リフト全４台共にガソリン車使用しているため、入出庫作業時の回数が多いと使用量も増えてきます。走行スピードを抑制し、入出庫時のマスト調整時のエンジンを噴かす回数を抑制・指導していきます。

（４） 液化天然ガスの使用量削減

無駄な使用頻度を抑制しています。

（５） 総評

環境経営計画の９０％が、「軽油」のエネルギー使用量になっている。次世代の低炭素型ディーゼル車への切り替えと省エネ運転技術の更なる向上で「安全」と「コスト削減」「環境負荷軽減」へ寄与できる様、努めて行きます。

7-2 廃棄物排出量の削減

トラックから排出されるオイルや廃タイヤは全てディーラーに依頼しており、事業所から出る事業用ゴミが主な対象となります。日々一定量の廃棄物が出て来ますので、増減幅はほぼ変わりません。ただ、廃棄物といっても無くす方向に持っていかなければなりませんので、当たり前に廃棄物を発生させるのではなく、減らせる努力を続けて行かねばなりません。

7-3 水使用量の削減

主に洗車機を通じて、トラックの洗車用に使います。しかし、食品を扱う車両として、常に綺麗に仕上げておくように指導していますので、大幅な削減は見込めません。改善点を上げるならば、水を出しっぱなしにしないこと水漏れ箇所の早期発見に努めて行きます。

7-4 乗務員への環境教育の実施

月１回のミーティングを通して、環境負荷軽減への取組みを説明し、意識向上を図って行きます。トラック対象のエコ運転は以前より取り組んでいますが、時間が経つにつれて忘れてたりするので、習って来たことを習得できる様、繰り返し指導していきます。

（2023 年 主な環境教育記録）

- ・ 2023 年 1 月 7 日 損保ジャパン株式会社様 「安全講習会」
- ・ 2023 年 5 月 20 日 株式会社矢野特殊自動車様 工場研修
- ・ 2023 年 10 月 21 日 九州日野自動車株式会社様 「整備点検講習会」

7-5 会社周辺及び敷地内清掃

月 1 回を目標に敷地内の清掃に努めています。また、福岡県トラック協会を通じて社内周辺地域の清掃活動の案内にも同意し、活動範囲を広げています。

7-6 グリーン製品購入の推進

文具・再生紙利用のため、都度発注を掛けているが、今一度「エコマーク」「再生紙」等のグリーン製品を確認し、購入を進めて行きます。また、コピー機のトナーも新品ではなく、再利用製品を使っています。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価の結果及び違反・訴訟の有無

当社が順守しなければならない主な環境関連法規は次の通りです。

- (1) 廃棄物の処理扱い及び清掃に関する法律
- (2) 消防法
- (3) 浄化槽法
- (4) フロン排出抑制法

それらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。尚、関係当局よりの違反の指摘及び利益関係者からの訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

運送会社として安全や環境に対する法律を遵守し、社会的にも重要なインフラであることから、弊社も「安全・環境」で社会に役立てる活動が出来ないかと考え、「エコアクション21（EA21）」を選択しました。

各項目の活動内容は、普段から行っていることを明文化し行動を促せるよう計画段階で「見える化」しました。特に全社エネルギー使用量の90%を占める「電力使用量」「軽油使用量」は、各車両・項目毎に確認出来る様に集計表を見直し、集団ミーティングや個人毎に指導・確認出来る様に改めました。

「見える化」は、現場で動く乗務員や事務員のみならず経営層・管理者にも気付きを与えてくれます。上からの声で動くのではなく、社員皆が環境への関心を持ち、主体的に動いてくれることを期待しています。

そのために、1人1人が環境への関心を持って行動できる様、関係各社の協力及びEA21委員会を通じて活動の深化を図っていきます。